



地域づくりのためのアプローチ

21世紀へのふるさとプラン 案まとまる

協働のまちづくりは 関心の深い地域から

プランの目的

本市は、二十一世紀へ向けてのまちづくりの指標として「おだわら21世紀プラン」を定めています。これは小田原市全体の計画です。また、まちづくりというものは行政だけで進められるものではなく、市民のみならず行政とがそれぞれの役割を認識し、お互いの信頼関係を

策定の経過

「地域プラン」の策定にあたっては、市民のみならず行政との情報交換の中からみなさんにとって身近な地域の将来方向を探し出して、この「地域カルテ」を作成しました。この「地域カルテ」をスラ

地域の一体感から 将来イメージを共有

プランの構成

「地域プラン」は、二面から四面的に展開したとあり、六つの地域ごとに、次の四つの項目で構成してあります。

1 地域の姿

ここでは、それぞれの地域の区分設定というものを、その「歴史の歩み」と「地形的状況」から理解していただくとともに、地域の一体性を感じ取っていただくとするものです。

2 地域の特性

ここでは、それぞれの地域の現況について近年の各

3 地域の課題

ここでは、「地域の特性」を踏まえ、地域懇談会と地域探訪会において発表された意見、要望を中心に、「市民アンケート調査」「わたしの提案」などから抽出された「地域の課題」というものを解決していくために必要であろうと考える対策を掲げたものです。

4 地域の方向性

ここでは、前述の「地域の課題」を前提にして、それぞれの地域が小田原市全体の中でどういう役割、位置付けを有し、どうまちづくりを進めていくべきかを、地域「将来イメージ」と課題解決のための「望まれる対策」の二つに分けて記述したものです。

市民性を配慮

このプランは、行政が策定し市民に示すプランではなく、市民のみならず地域づくりについて考えていただく、活動を起していただくためのものですから、市民のみならず、市民にとって親しみやすいもの、理解しやすいものとするに心がけました。

今回の広報特集号では紙面の都合上割愛しましたが、それぞれの地域ごとの四つの項目のほかに、地域の話題となりそうな情報を「地域アラカルト」というコラム欄を設けて掲載しました。また、文章は平易さに心がけましたが、「地域の特性」の項目においてどうしても専門用語を使用せざるを得ない部分もありましたので、「用語の説明」ページを設けて解説をいたしました。さらに、最終的には写真なども加えて読みやすいものにしていく予定であります。

わたしの提案制度で 意見をお寄せください

地域プランについては、引き続き市民のみならずみなさんがこの案についてご意見、ご提言をいただき感じられたことや、地域の一体感、愛着感を形成して修正作業を行っていきます。一休感、愛着感を形成して

Form for 'My Proposal' (わたしの提案) with fields for name, address, and proposal content.



地域の区分

地域を区分するに際しては、基本的には地域活動の基礎単位である自治会、さらに旧村落単位である連合自治会を分割しないこと、地域における生活圏である小・中学校の通学区域を分割しないことに留意して設定したものです。地域区分の基準としては、

- 1 地理的・地形的条件
2 歴史的背景(合併経緯等)
3 大字・自治会の範囲
4 将来土地利用構想
5 今後の発展の同一性の五つを基に、次の六地域を設定しました。
◆片浦地域(片浦連合自治会)

- ◆中央地域 早川・大津・緑・新玉・万年・幸・十字・山王網一色・足柄・芦子・二川・久野連合自治会の区域
◆川東・南部地域(下府中・酒匂・国府連合自治会の区域)
◆川東・北部地域 豊川・上府中・曾我・下曾我連合自治会の区域
◆橋地域(橋南・橋北連合自治会の区域)

片浦地域

地域の姿

歴史の歩み

この地域を含む早川以南の相模の国は、平安時代初期までは、垂水郷と呼ばれていた。その後、橘地域の豪族・中村宗平の次男土肥実平が領するところとなり、以明時代に入り、小田原、土肥郷と呼ばれるように編入されると同時に、早川、石橋、米神、根府川、江之浦



江之浦漁港での地域要望説明

源頼朝が平家討伐の挙兵をし、この地域の石橋地区に陣したことから、世にいう「石橋山合戦」が起こりました。頼朝は、この戦いに敗れはしました。土肥実平等の助けにより、鎌倉に幕府を開き、わが国の歴史における中世の幕を開いたのであります。室町時代は、小田原に本拠を構えた大森氏の支配下になりましたが、北條早雲の小田原城占拠によって北條氏の領地になりました。「片浦」の地名は、この北條氏の時代から用いられました。

その後、大正二年(一九一三年)に、組合村から石橋、米神、根府川、江之浦の四村が分離、合併して片浦村となり、さらに、昭和二十九年(一九五四年)に小田原市に合併し、現在に至っています。

地形的状況
この地域は、箱根連山の南端にあり、相模湾に面している。気候は温暖で、東京と比べ夏は涼しく、冬は比較的暖かい。年間平均気温は十五・六度とあり、気候の年較差も大きくない。果樹栽培としての好適地となっており、みかん栽培が盛んである。

人口
人口は徐々に減少してきていますが、世帯数はほぼ横ばい。昭和三十五年から六十年の間に、人口は約四分の一減少したが、世帯数は一・四倍に増加した。

土地利用
地域のほぼ全域が山林と傾斜地で、土地利用も住宅や道路といった都市的な利用が盛んである。果樹栽培はみかんが中心で、人口密度はほとんどがヘクタール当たり二十人未満となっている。

産業
産業別就業者数の割合は、第一産業が三・五％、第二産業が四・九％と比較的である。果樹栽培が中心で、みかん栽培が盛んである。

公共施設
地域に指定されている施設は、小学校、中学校、保健センター、公民館、図書館、小田原駅などがある。

地域の問題
山と海という豊かな自然と多くの歴史的遺産を有しているが、地形的に山間部は急傾斜地が多く、良好な地域の人間関係を保ち続けることによって、土地利用の規制もあつて一般には開発が難しい地域といえます。

将来イメージ
豊かな自然環境を保全しながら、山と海という豊かな自然と多くの歴史的遺産を有しているが、地形的に山間部は急傾斜地が多く、良好な地域の人間関係を保ち続けることによって、土地利用の規制もあつて一般には開発が難しい地域といえます。

中央地域

地域の姿

歴史の歩み

この地域は、十二世紀に早川庄として荘園化し、その荘園は早川流域から酒匂川の西狩川の南まで広がり、その中心は山王川流域であったと考えられています。室町時代、大森氏が駿河国から移って城を築いたとき、小田原は初めて武家豪族の本拠地となりました。

その後、大正二年(一九一三年)に、組合村から石橋、米神、根府川、江之浦の四村が分離、合併して片浦村となり、さらに、昭和二十九年(一九五四年)に小田原市に合併し、現在に至っています。

地形的状況
この地域は、南は相模湾に面し、東は酒匂川に、さらに狩川との合流地点から北部は多古丘陵によって足柄平野から隔てられ、西部は箱根外輪山に連なっており、西部山地の西北端・明星ヶ岳と西南端の白根山との間を早川が流れ、白根山と注いでいます。

人口
昭和三十五年から六十年の間に、人口は約四分の一減少したが、世帯数は一・四倍に増加した。

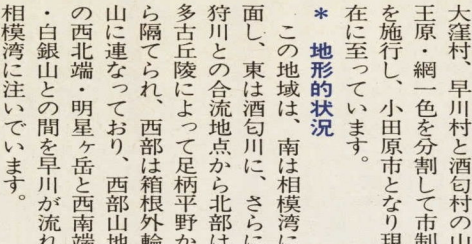
土地利用
地域の西部山岳・丘陵地は、果樹栽培が盛んであり、みかん栽培が中心で、人口密度はほとんどがヘクタール当たり二十人未満となっている。

産業
産業別就業者数の割合は、第一産業が三・五％、第二産業が四・九％と比較的である。果樹栽培が中心で、みかん栽培が盛んである。

公共施設
地域に指定されている施設は、小学校、中学校、保健センター、公民館、図書館、小田原駅などがある。

地域の問題
山と海という豊かな自然と多くの歴史的遺産を有しているが、地形的に山間部は急傾斜地が多く、良好な地域の人間関係を保ち続けることによって、土地利用の規制もあつて一般には開発が難しい地域といえます。

将来イメージ
豊かな自然環境を保全しながら、山と海という豊かな自然と多くの歴史的遺産を有しているが、地形的に山間部は急傾斜地が多く、良好な地域の人間関係を保ち続けることによって、土地利用の規制もあつて一般には開発が難しい地域といえます。



建設中の石垣山農道を見学

行われました。以来約百年間、後北條氏の時代は地方文化の一大中心地として繁栄しました。しかし、天正十八年(一五九〇年)には豊臣秀吉の小田原攻めに降伏し、後北條氏の治世も終わりました。

地形的状況
この地域は、南は相模湾に面し、東は酒匂川に、さらに狩川との合流地点から北部は多古丘陵によって足柄平野から隔てられ、西部は箱根外輪山に連なっており、西部山地の西北端・明星ヶ岳と西南端の白根山との間を早川が流れ、白根山と注いでいます。

人口
昭和三十五年から六十年の間に、人口は約四分の一減少したが、世帯数は一・四倍に増加した。

土地利用
地域の西部山岳・丘陵地は、果樹栽培が盛んであり、みかん栽培が中心で、人口密度はほとんどがヘクタール当たり二十人未満となっている。

産業
産業別就業者数の割合は、第一産業が三・五％、第二産業が四・九％と比較的である。果樹栽培が中心で、みかん栽培が盛んである。

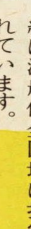
公共施設
地域に指定されている施設は、小学校、中学校、保健センター、公民館、図書館、小田原駅などがある。

地域の問題
山と海という豊かな自然と多くの歴史的遺産を有しているが、地形的に山間部は急傾斜地が多く、良好な地域の人間関係を保ち続けることによって、土地利用の規制もあつて一般には開発が難しい地域といえます。

将来イメージ
豊かな自然環境を保全しながら、山と海という豊かな自然と多くの歴史的遺産を有しているが、地形的に山間部は急傾斜地が多く、良好な地域の人間関係を保ち続けることによって、土地利用の規制もあつて一般には開発が難しい地域といえます。

早川のヒランジュ

暖かい地方の植物で、わが国に分布するヒランジュ



早川のヒランジュ

産業別就業者数の割合は、第一産業が三・五％、第二産業が四・九％と比較的である。

特徴的な施設としては、早川の小田原漁港、水産市場、川公園などがある。

また、自然と歴史遺産の豊富魅力ある商業空間を再構築していくことが望まれます。

また、自然と歴史遺産の豊富魅力ある商業空間を再構築していくことが望まれます。

また、自然と歴史遺産の豊富魅力ある商業空間を再構築していくことが望まれます。

富水・桜井地域

地域の姿

* 歴史の歩み

鎌倉時代の初めころには、桜井地区は現大井町一帯を中心とした大井庄に含まれ、富水地区は足柄下郡内の土肥氏の領する早川庄の一部でありました。

地域内の大字名の多くは、茅草の茂った地を開いて茅間(栢山)と呼んだとか、開拓

された地に居着いたので新屋と呼ばれるようになったとか、酒匂川の乱流と深いかわりを持つています。

室町時代は、小田原に本拠を構えた大森氏の支配下でありましたが、北條早雲の小田原占拠によって後北條氏の領地になりました。

後北條氏以来、足柄平野は水田として開発され豊かな土地となりましたが、江戸時代宝永四年(一七〇七年)の富士山噴火の被害は大きく、さらに降灰後の酒匂川出水によって多くの田が流出すると、この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

十二村が富水村になりました。その後、富水村は明治四十一年(一九〇八年)に久野村、二川村、蔵子村と合併し足柄村になり、昭和十五年(一九四〇年)には足柄町に、昭和二十五年(一九五〇年)に小田原市に合併し、現在に至っています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

川東・南部地域

地域の姿

* 歴史の歩み

平安時代、東国の官道(東海道)が足柄峠から国府(現大磯町・国府本郷)へと続いており、国府津は、相模国の国府の海辺が船の便に悪いいため国府の津(港)として海陸の交通の要地でありました。

鎌倉時代に入ると東海道は箱根越えが本道となり、足柄平野の海岸を通ることになり、小田原宿や酒匂宿が形成され

後北條氏以来進められた新田開発によって鴨宮村を中心に形成されたものです。

明治時代に入ると、小田原藩領から小田原県、足柄県、模湾と接するところであり、酒匂川を西境とし、南に相模湾、東は曾我丘陵によって橋野と区分され、北は足柄平野を東西に横断する国道二七の七村は下府中村になりました。そうして中府国府津は、

後北條氏以来進められた新田開発によって鴨宮村を中心に形成されたものです。

明治時代に入ると、小田原藩領から小田原県、足柄県、模湾と接するところであり、酒匂川を西境とし、南に相模湾、東は曾我丘陵によって橋野と区分され、北は足柄平野を東西に横断する国道二七の七村は下府中村になりました。そうして中府国府津は、

この地域は、足柄平野が相模湾と接するところであり、酒匂川を西境とし、南に相模湾、東は曾我丘陵によって橋野と区分され、北は足柄平野を東西に横断する国道二七の七村は下府中村になりました。そうして中府国府津は、

この地域は、足柄平野が相模湾と接するところであり、酒匂川を西境とし、南に相模湾、東は曾我丘陵によって橋野と区分され、北は足柄平野を東西に横断する国道二七の七村は下府中村になりました。そうして中府国府津は、

この地域は、足柄平野が相模湾と接するところであり、酒匂川を西境とし、南に相模湾、東は曾我丘陵によって橋野と区分され、北は足柄平野を東西に横断する国道二七の七村は下府中村になりました。そうして中府国府津は、

この地域は、足柄平野が相模湾と接するところであり、酒匂川を西境とし、南に相模湾、東は曾我丘陵によって橋野と区分され、北は足柄平野を東西に横断する国道二七の七村は下府中村になりました。そうして中府国府津は、

この地域は、足柄平野が相模湾と接するところであり、酒匂川を西境とし、南に相模湾、東は曾我丘陵によって橋野と区分され、北は足柄平野を東西に横断する国道二七の七村は下府中村になりました。そうして中府国府津は、

この地域は、足柄平野が相模湾と接するところであり、酒匂川を西境とし、南に相模湾、東は曾我丘陵によって橋野と区分され、北は足柄平野を東西に横断する国道二七の七村は下府中村になりました。そうして中府国府津は、

この地域は、足柄平野が相模湾と接するところであり、酒匂川を西境とし、南に相模湾、東は曾我丘陵によって橋野と区分され、北は足柄平野を東西に横断する国道二七の七村は下府中村になりました。そうして中府国府津は、



酒匂海岸の浸食状況を見学

地域の特性

人口と世帯数は、特に昭和三十五年から四十五年にかけて急増し、その後も増加を続けています。昭和三十五年から六十年の二十五周年に、人口は三・四倍、世帯数は四・六倍に増えました。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

地域の課題

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

地域の課題

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

地域の方向性

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。

この地域は、狩川流域を中心に酒匂川を東境とし、北は開成町、西は南足柄市に続き、南部は多古丘陵によって中央地域と区分されています。



酒匂川堤での地域要望説明

川東・北部地域

地域の姿

* 歴史的背景

この地域は、平安時代、足柄峠を越え国府津へ出る東国の官道の道筋に当たっており、千代台地から廃跡跡が発掘されたことにより、足柄下郡の中心であったのではないかと考えられています。

鎌倉時代の初めごろから、曾我・下曾我地区は曾我庄、上府中地区は大友庄、豊川地

区は成田庄に属し、曾我庄は曾我兄弟の継父で知られる曾我祐信の曾我氏に、大友庄は後に豊後国を本拠とした大名として有名な大友氏に、また成田庄は土肥実平の子孫で後に安芸国に移った小早川氏の庶子家によって支配されていました。

室町時代は、大森氏の支配下にありましたが、北條早雲の小田原占拠によって後北條氏の領地となりました。以後、江戸時代は小田原城主の城付地として小田原藩領となり、一時期を除き大久保氏の支配するところとなりました。

* 地形的状況

この地域は、北は大井町に接し、西は酒匂川を境とし、南は、足柄平野を東西に横断する国道二七号を境とし、東・南部地域に続き、東は曾我丘陵で区分されています。

全体的には、曾我丘陵から酒匂川流域に段丘をつくりながら傾斜し、曾我丘陵の南面は柑橘、麓は梅などの果樹

さらに神奈川県東部の所管となり、明治二十二年(一八八九年)町村制によって曾我地区の六村(うち二村は現在大井町)が曾我村に、下曾我地区の四村は下曾我村に、上府中地区の七村が上府中村に、豊川地区の三村が豊川村になりました。

* 人口

人口、世帯数とも増加を続けてきており、昭和三十五年(一九六〇年)の二十五年間に、人口は二倍、世帯数は三倍に増加しました。

一世帯の平均人員は、三・七人と、市の平均人員の三・三人より多くなっています。年齢別では老年人口比率が九・三%(市平均九・九%)、生産年齢人口比率が六八・四%(市平均六九・〇%)、年少人口比率が二二・四%(市平均二二・一%)と本市

栽培の適地であり、酒匂川流域の平地は南流する小河川及び用水によって水田地帯となつていいます。気候は四季を通じて温和で、富士山を遠望できる景観とともに、都市近郊の田園地帯として得がたい魅力をつくり出しています。

* 土地利用

この地域の市街化区域は、約二六・六%、市街化調整区域を占めています。一方、成田・桑原・鬼柳地区には現在市街化調整区域ですが、将来工業団地を造成しようとする特定保留区域があり、これを取り込んで都市的土地利用を図る区域に区分されています。

また、曾我山丘陵地は、水源を確保するために一部保安林の指定がされています。そのほか、小学校が四校、中学校が一校、市立保育園が四園、郵便局が三局、警察駐

一次産業が九二・〇%、第二次産業が四・九%、第三次産業が三・一%です。特に第一次産業が市平均の四・九%よりも多くなっています。これは、市街化調整区域が約八三%を占め、平野部には優良な水田や果樹園が、曾我丘陵地にはみかんや梅を主体とした果樹園が広がっていることによるものと思われます。

* 公共施設

特徴的な施設としては、現在建設中の総合公園のほか、豊川に学校給食センターがあり、そのほか、小学校が四校、中学校が一校、市立保育園が四園、郵便局が三局、警察駐

比較的大きな工場の立地も見られますが、数が少ないため、多くの人が他の地域へ働きに出ています。

在所が四か所あります。市民アンケート調査の結果は、「サラリーマン」家庭が多くなっていますが、従来からの住民層も多く、近隣関係では「親密なつきあい」が比較的高くなっています。

* コミュニティ意識

市民アンケート調査の結果では、居住年数は二十年未満が多く、十年以上は半数をやや超える程度で、全市の中で最も低くなっています。

このほか、特徴的な施設として、前川に福祉館が、小船みかん栽培や畜産が盛んに行われていますが、近年のみかん価格低迷や農産物自由化の動きなど、農業環境の著しい変化が予測され、就業の場としてみかん栽培の誘致などを含めて産業策が必要となつてきています。

市民アンケート調査の結果では、居住年数は二十年未満が多く、十年以上は半数をやや超える程度で、全市の中で最も低くなっています。

* 望まれる対策

(1)「梅の里づくり」の推進

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。

* 望まれる対策

(1)「梅の里づくり」の推進

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。

橋地域

地域の姿

* 歴史的背景

橋地域は、平安時代末期には中村郷に属し、小竹・殿ノ窪に居館を構えた豪族・中村宗平の支配にありました。この中村氏一族は、源頼朝の鎌倉幕府の創建に多大な貢献をし、鎌倉時代には全国に散って繁栄しました。

その後、室町時代中期には、

中村氏は衰亡し、小田原に本拠を構えた大森氏の領するところとなりました。以後、中村郷は上中村郷と下中村郷とに分かれたらしく、中村川下流域のこの地域は下中村郷となり、戦国時代は後北條氏、江戸時代に入り大久保氏の支配するところとなりました。

しかし、慶長十九年(一六一四年)大久保忠隣が改易に伴って、本地域内の前川・羽根尾・中村原・小船・上町・沼代・小竹の各村は、江戸時代を通じて、小田原藩領、幕府直轄領、旗本領等、各々異なった領主に分散されて支配を受けました。

明治二十二年(一八八九年)の町村制によって前羽村、下中村の二村となりました。その後、昭和三十年(一九五五年)の町村合併促進法により二村が合併して橋郷となり、さらに、昭和四十六年(一九七一年)に小田原市に合併して、現在に至っています。

この地域は、西は曾我丘陵に面して、北は中井町、東は二宮町に接する台地に囲まれ、南は傾斜地となつて相模湾に落ち込んでいます。地域の東部を中村川が南北に縦貫して流れ、その流域はおおむね平地で田畑が広がりますが、そのほかは丘陵地や山林と果樹園になっています。

気候は西北部の曾我丘陵で冬季の寒風がささげられ、海・九%とほぼ同じですが、年間にわたって、都市的土

北は中井町、東は二宮町に接する台地に囲まれ、南は傾斜地となつて相模湾に落ち込んでいます。地域の東部を中村川が南北に縦貫して流れ、その流域はおおむね平地で田畑が広がりますが、そのほかは丘陵地や山林と果樹園になっています。

気候は西北部の曾我丘陵で冬季の寒風がささげられ、海・九%とほぼ同じですが、年間にわたって、都市的土

気候は西北部の曾我丘陵で冬季の寒風がささげられ、海・九%とほぼ同じですが、年間にわたって、都市的土

* 人口

人口、世帯数とも増加を続けてきており、昭和三十五年(一九六〇年)の二十五年間に、人口は二倍、世帯数は三倍に増加しました。

一世帯の平均人員は、三・七人と、市の平均人員の三・三人より多くなっています。年齢別では老年人口比率が九・三%(市平均九・九%)、生産年齢人口比率が六八・四%(市平均六九・〇%)、年少人口比率が二二・四%(市平均二二・一%)と本市

比較的大きな工場の立地も見られますが、数が少ないため、多くの人が他の地域へ働きに出ています。

* 土地利用

この地域の市街化区域は、約二六・六%、市街化調整区域を占めています。一方、成田・桑原・鬼柳地区には現在市街化調整区域ですが、将来工業団地を造成しようとする特定保留区域があり、これを取り込んで都市的土地利用を図る区域に区分されています。

また、曾我山丘陵地は、水源を確保するために一部保安林の指定がされています。そのほか、小学校が四校、中学校が一校、市立保育園が四園、郵便局が三局、警察駐

比較的大きな工場の立地も見られますが、数が少ないため、多くの人が他の地域へ働きに出ています。

* 公共施設

特徴的な施設としては、現在建設中の総合公園のほか、豊川に学校給食センターがあり、そのほか、小学校が四校、中学校が一校、市立保育園が四園、郵便局が三局、警察駐

比較的大きな工場の立地も見られますが、数が少ないため、多くの人が他の地域へ働きに出ています。

比較的大きな工場の立地も見られますが、数が少ないため、多くの人が他の地域へ働きに出ています。

* コミュニティ意識

市民アンケート調査の結果では、居住年数は二十年未満が多く、十年以上は半数をやや超える程度で、全市の中で最も低くなっています。

このほか、特徴的な施設として、前川に福祉館が、小船みかん栽培や畜産が盛んに行われていますが、近年のみかん価格低迷や農産物自由化の動きなど、農業環境の著しい変化が予測され、就業の場としてみかん栽培の誘致などを含めて産業策が必要となつてきています。

市民アンケート調査の結果では、居住年数は二十年未満が多く、十年以上は半数をやや超える程度で、全市の中で最も低くなっています。

* 望まれる対策

(1)「梅の里づくり」の推進

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。

* 望まれる対策

(1)「梅の里づくり」の推進

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。

* 望まれる対策

(1)「梅の里づくり」の推進

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。



下曾我の区画整理地内を見学

たれています。また、近隣関係は比較的良好ですが、地域活動への参加意識は比較的低い地域となっています。

* 将来イメージ

田園風景や曾我丘陵の緑と良好な住宅地、そして公害がなく景観に意を配した工業地帯とが調和した、のどかでありつつも、おびやかされることなく地域の形成を目指します。

* 望まれる対策

(1)「梅の里づくり」の推進

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。

* 望まれる対策

(1)「梅の里づくり」の推進

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。

鬼柳地区一帯には、工業団地を造成しようとする計画が進んでいますが、この工業団地の物流の円滑化と国道二五五号の交通混雑を解消するため、酒匂川左岸道路と市街地へ流入する通過交通を回させるための外環状道路が計画されており、その早期実現が待たれています。



落葉の沼代桜並木を探訪

人口、世帯数とも増加傾向を示しており、昭和三十五年(一九六〇年)の二十五年間に、人口は一・六倍、世帯数は二・四倍になりました。特に、

この地域は、西は曾我丘陵に面して、北は中井町、東は二宮町に接する台地に囲まれ、南は傾斜地となつて相模湾に落ち込んでいます。地域の東部を中村川が南北に縦貫して流れ、その流域はおおむね平地で田畑が広がりますが、そのほかは丘陵地や山林と果樹園になっています。

気候は西北部の曾我丘陵で冬季の寒風がささげられ、海・九%とほぼ同じですが、年間にわたって、都市的土

比較的大きな工場の立地も見られますが、数が少ないため、多くの人が他の地域へ働きに出ています。

このほか、特徴的な施設として、前川に福祉館が、小船みかん栽培や畜産が盛んに行われていますが、近年のみかん価格低迷や農産物自由化の動きなど、農業環境の著しい変化が予測され、就業の場としてみかん栽培の誘致などを含めて産業策が必要となつてきています。

市民アンケート調査の結果では、居住年数は二十年未満が多く、十年以上は半数をやや超える程度で、全市の中で最も低くなっています。

このほか、特徴的な施設として、前川に福祉館が、小船みかん栽培や畜産が盛んに行われていますが、近年のみかん価格低迷や農産物自由化の動きなど、農業環境の著しい変化が予測され、就業の場としてみかん栽培の誘致などを含めて産業策が必要となつてきています。

市民アンケート調査の結果では、居住年数は二十年未満が多く、十年以上は半数をやや超える程度で、全市の中で最も低くなっています。